
**2013年3月期
第3四半期決算 及び 通期業績見通し
説明資料**

帝人株式会社

2013年2月4日

第3四半期決算概況

(1) 2013年3月期 第3四半期決算概況

(億円)

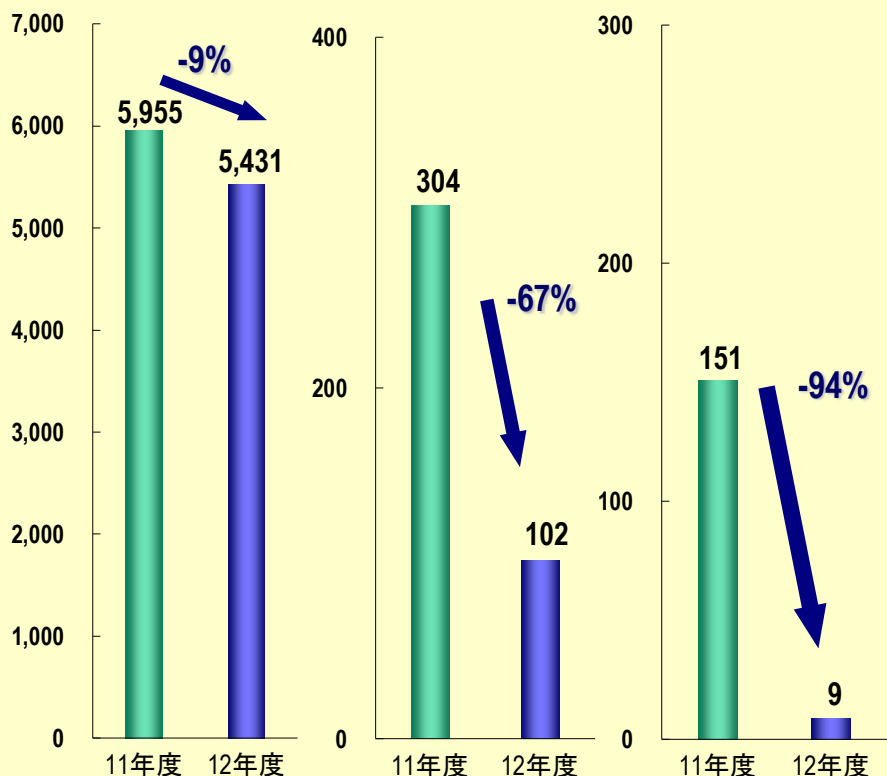
年度累計

(前年同期比)

売上高

営業利益

四半期純利益



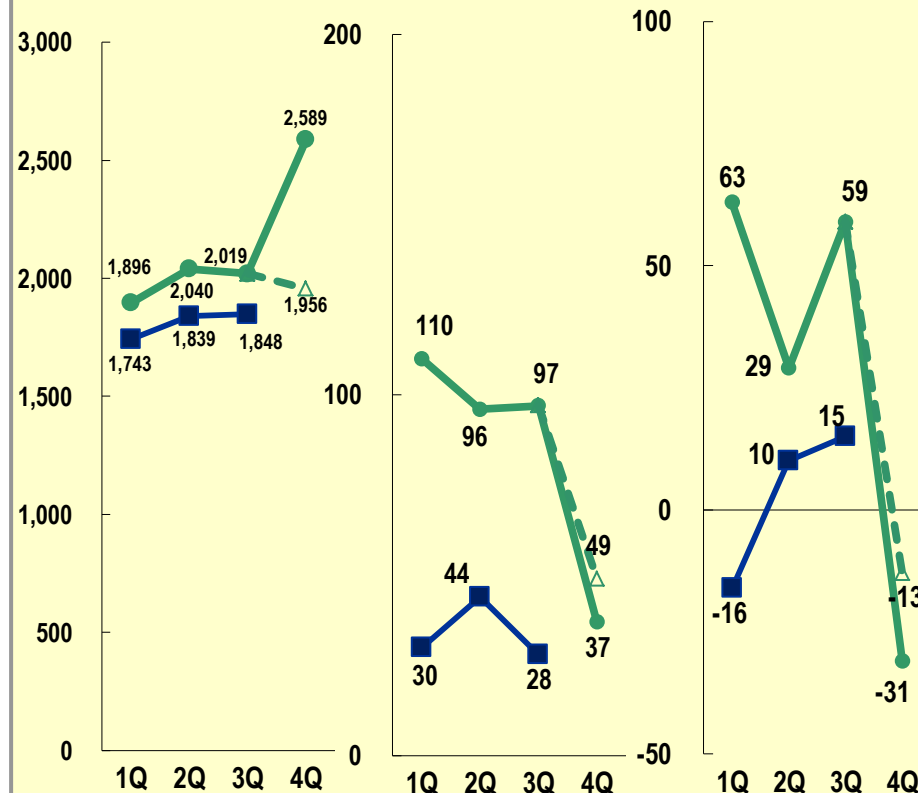
四半期推移

● 11年度 ■ 12年度

売上高

営業利益

四半期純利益



* △は決算期統一影響を除いた額

◆ 経営成績

(億円)

	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異 金額
売上高	5,955	5,431	-524
営業利益	304	102	-202
<営業利益率>	5.1%	1.9%	-3.2%
営業外損益	12	-17	-29
経常利益	316	85	-231
特別損益	-37	-16	+21
税金等調整前 四半期純利益	278	69	-210
法人税等	116	55	-61
少数株主損益	12	5	-6
四半期純利益	151	9	-142
EPS(円)	15.34	0.88	-14.46

EBITDA *1	652	446	-207
設備投資 *2	199	248	+49
減価償却費	349	344	-4
研究開発費	226	238	+13
FCF	-155	35	+190

➤ 売上高、営業利益 減収・減益

- ・ 欧州を中心とした景気低迷により
素材事業において需給バランス失調
- ・ 医薬品の薬価改定・競合激化

➤ 経常利益 減益

- ・ 持分法による投資利益減少

◇ PL換算レート

	11年 3Q累計	12年 3Q累計
円 / 米ドル	81	80
円 / ユーロ	113	102
米ドル / ユーロ	1.41	1.28

*決算期統一前のため、2011年度の3Q累計は
1～9月のレートを使用

◆特別損益等

(億円)	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異 金額
固定資産売却益	2	9	+7
関係会社株式売却益	7	—	-7
退職給付制度改定益	—	4	+4
その他	4	3	-1
特別利益 計	13	17	+4
固定資産除売却損	3	8	+4
投資有価証券評価損	20	8	-12
減損損失	12	7	-5
貸倒引当金繰入額	4	—	-4
震災関連費用	3	—	-3
洪水関連費用	—	3	+3
その他	8	8	+0
特別損失 計	50	33	-17
特別損益 計	-37	-16	+21

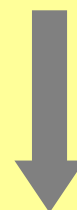
➤ 特別損益改善: +21億円

・特別利益 増 +4億円
退職給付制度改定益等

・特別損失 減 +17億円
投資有価証券評価損減少等

➤ 法人税等

・税前利益 69億円



のれん償却
税効果(赤字会社等)

⇒法人税等 55億円

四半期純利益 9億円

法人税等	116	55	-61
少数株主損益	12	5	-6

◆財政状態

(億円)	12年3月末	12年12月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	7,621	7,800	+179	+114
自己資本	2,920	2,943	+23	+46
有利子負債	2,610	2,749	+139	+47

➤総資産増加:

- ・為替換算差により増加
- ・棚卸資産残高増加等

➤自己資本増加:

- ・為替換算調整の控除額減少

➤有利子負債増加:

- ・運転資本増加
- ・為替換算影響

D/Eレシオ	0.89	0.93	+0.04
自己資本比率	38.3%	37.7%	-0.6%

◆キャッシュ・フローの状況

(億円)	営業活動	投資活動	FCF	財務活動他	現金及び 現金同等物 増減
12年度 3Q累計	310	-274	35	18	53
11年度 3Q累計	99	-254	-155	162	7

◇BS換算レート

	12年 3月末	12年 12月末
円 / 米ドル	82	87
円 / ユーロ	110	115
米ドル / ユーロ	1.34	1.32

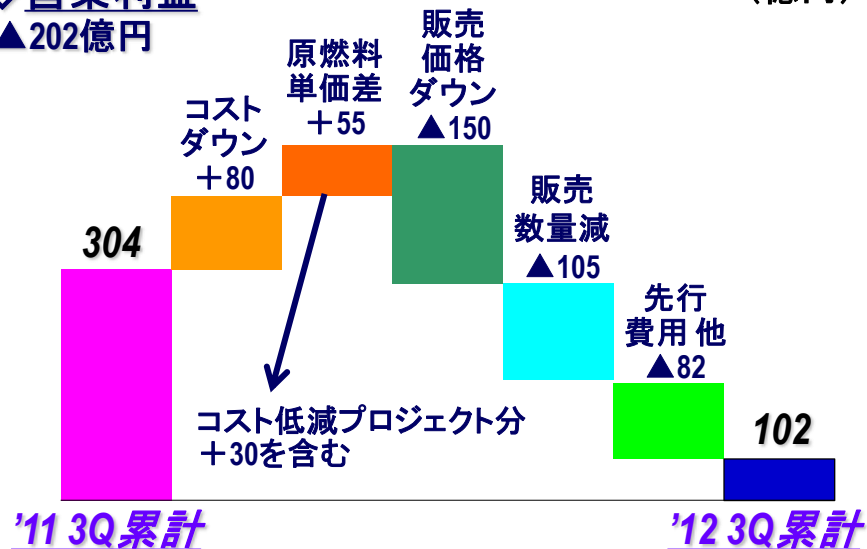
* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◆ 経営成績及び財政状態増減内訳

◇ 営業利益

▲202億円

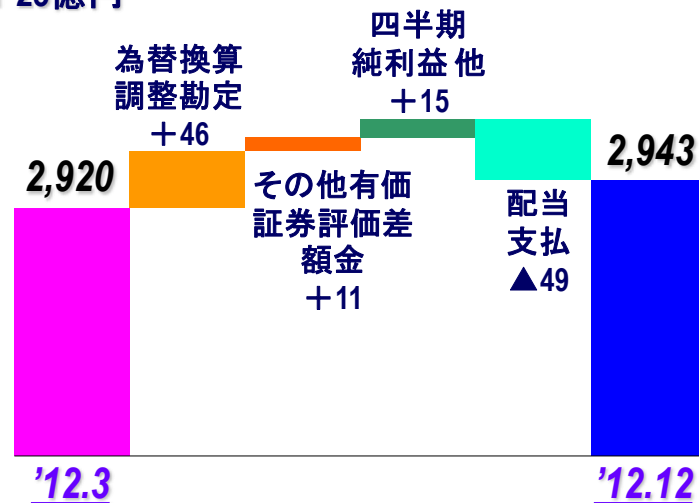
(億円)



◇ 自己資本

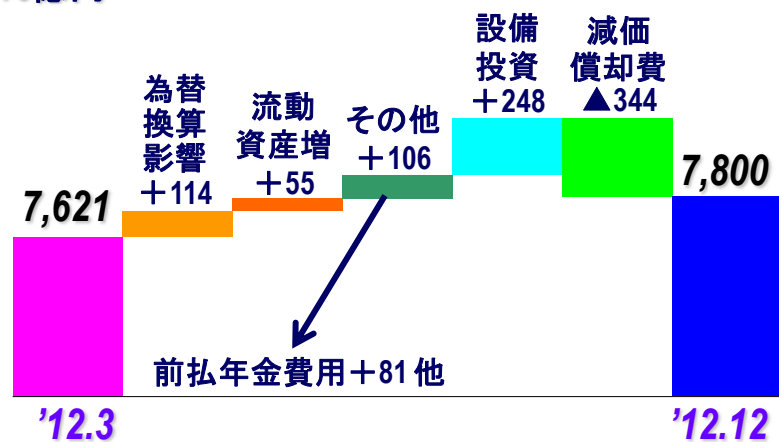
+23億円

(億円)



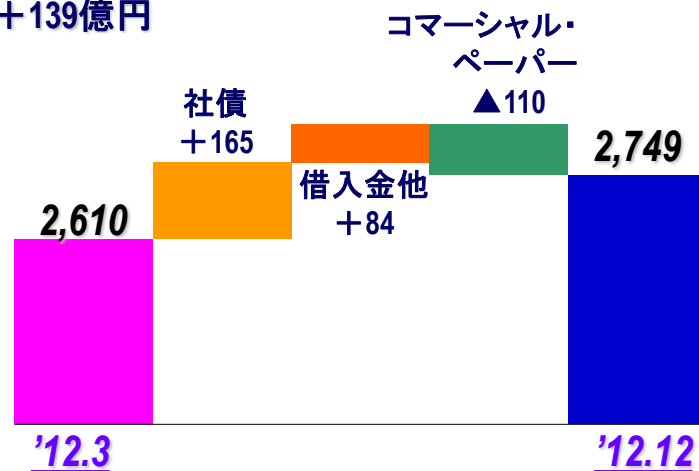
◇ 総資産

+179億円



◇ 有利子負債

+139億円



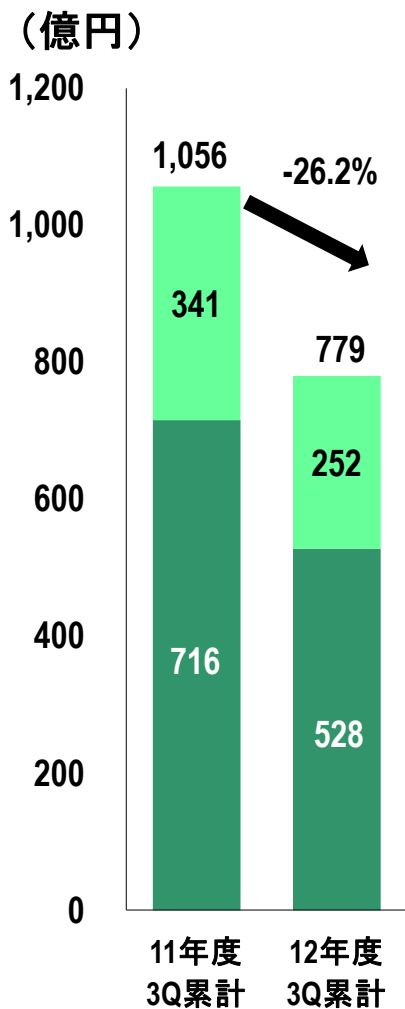
(2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異	増減率	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	1,056	779	-277	-26.2%	65	-17	-82	—
電子材料・化成品	1,393	1,315	-78	-5.6%	75	11	-64	-85.7%
ヘルスケア	1,041	1,000	-41	-3.9%	195	164	-31	-15.7%
製品	1,903	1,765	-138	-7.3%	50	37	-14	-26.9%
計	5,393	4,860	-534	-9.9%	385	195	-190	-49.4%
その他	561	571	+10	+1.8%	16	14	-2	-14.4%
消去又は全社	—	—	—	—	-97	-107	-10	—
合計	5,955	5,431	-524	-8.8%	304	102	-202	-66.6%

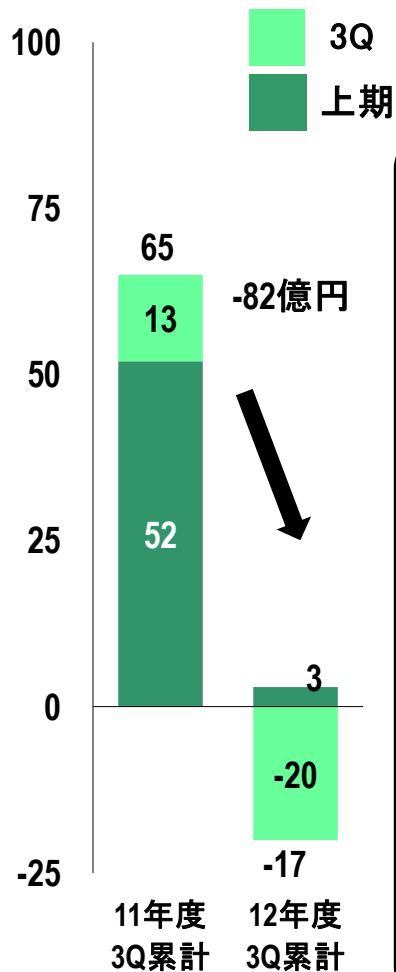
* 2011年度の数値を会社組織改革後の報告セグメントの区分に組み替えて表示しています

①高機能繊維・複合材料事業(旧・高機能繊維+ポリエステル繊維(産業資材))

売上高



営業利益



(億円)	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,056	779	-277	-26.2%
営業利益	65	-17	-82	—

◆事業概況

◇高機能繊維:

パラアラミド繊維:

- ・防弾・防護用途は低調に推移
- ・先進国の自動車関連用途需要も調整局面に

メタアラミド繊維:

- ・一部用途で需要減退と競合激化継続

ポリエステル繊維(産業資材)

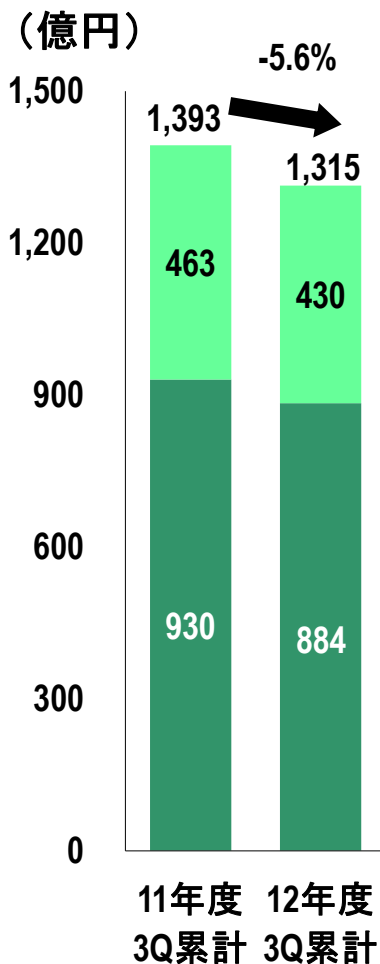
- ・欧州向け輸出低迷、自動車関連用途等で軟調推移
- ・衛生材料用途、土木建築資材用途では堅調

◇炭素繊維・複合材料:

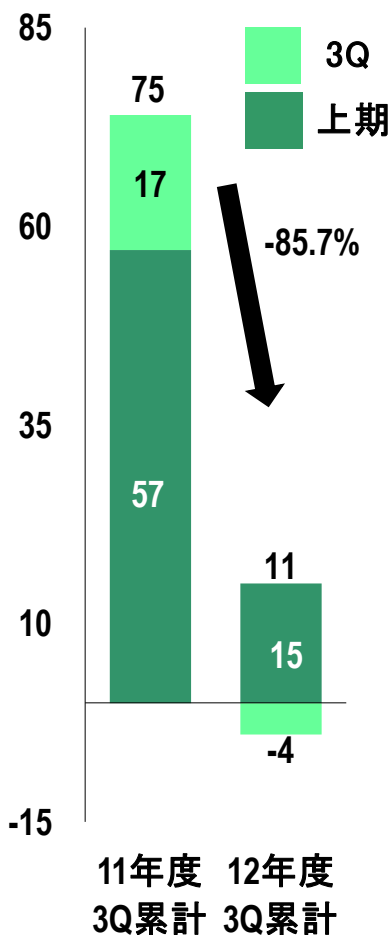
- ・航空機用途の好調継続
- ・北米で圧力容器用途の需要拡大
- ・その他一般産業、スポーツ・レジャー用途は需要軟化
- ・競争激化により価格は下落基調で推移

②電子材料・化成品事業(旧・化成品)

売上高



営業利益



(億円)	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,393	1,315	-78	-5.6%
営業利益	75	11	-64	-85.7%

◆事業概況

◇樹脂:

PC樹脂:

- ・電気・電子用途は市況低迷により苦戦、
その他用途での販売量確保に注力
- ・原料価格が高騰する中、価格是正に努める

樹脂加工品:

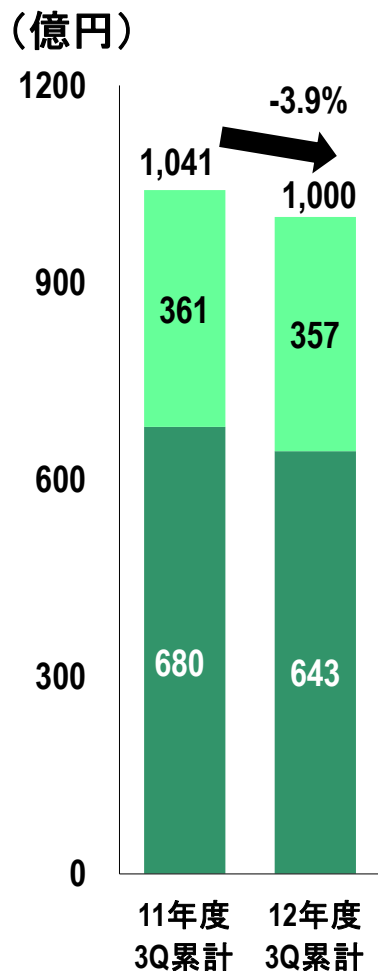
- ・パンライトシート堅調:自動車メーターパネル・
自販機ダミー缶向け
- ・透明導電性フィルム好調:スマホ・タブレット端
末、ゲーム機向け
- ・スマホ用カメラレンズ用特殊PCの販売好調、
生産体制を強化

◇フィルム:

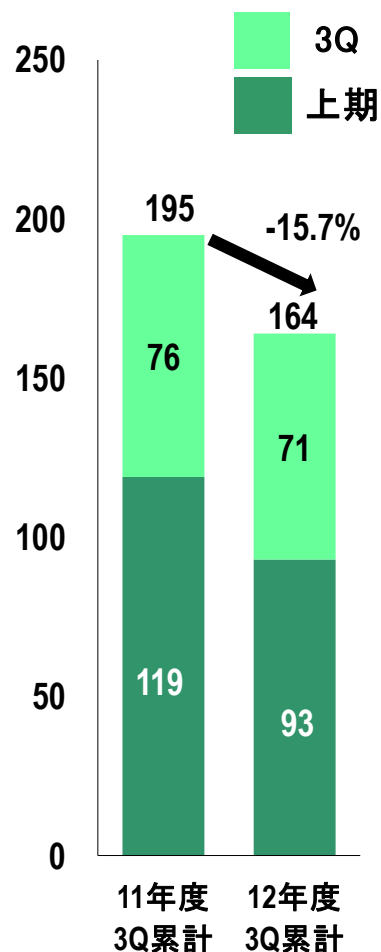
- ・主力用途の需要回復も、ペースは緩慢
- ・製造原価を中心としたコストダウンを強化
- ・アジアでの拡販に注力

③ヘルスケア事業(旧・医薬医療)

売上高



営業利益



(億円)	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,041	1,000	-41	-3.9%
営業利益	195	164	-31	-15.7%

◆事業概況

◇医薬品:

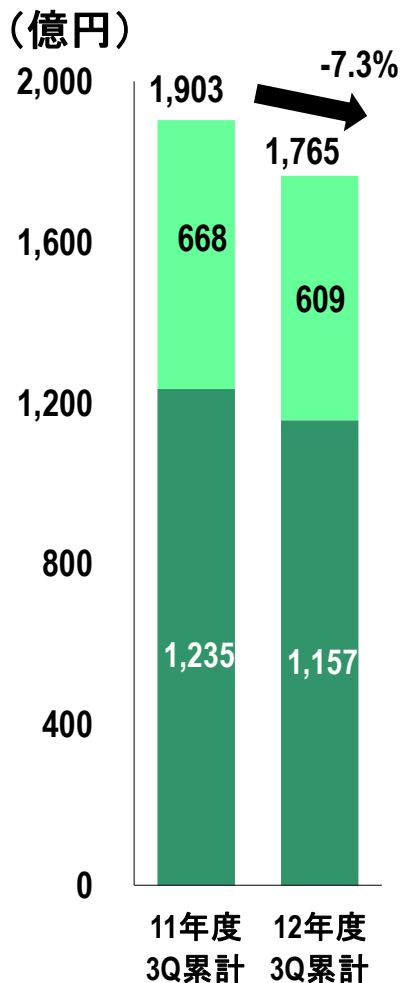
- ・痛風・高尿酸血症治療剤
「フェブキソスタット」
国内・海外とも順調に販売拡大
販売国数拡大に向けた取り組みに注力
- ・骨粗鬆症治療剤は厳しい競合環境が継続

◇在宅医療:

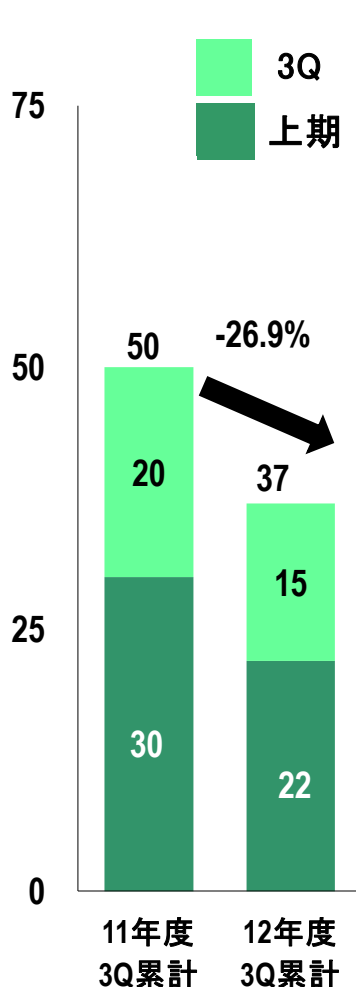
- ・HOT: 高水準のレンタル台数を維持
「ハイサンソ3S」の投入効果発現
- ・CPAP: 高水準のレンタル台数伸長継続
携帯電話網の活用によるモニタリング機能を搭載した「ネムリンク」を投入

④製品事業(旧・流通・リテイル+ポリエステル繊維(アパレル))

売上高



営業利益



(億円)	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,903	1,765	-138	-7.3%
営業利益	50	37	-14	-26.9%

◆事業概況

◇製品:

2012年10月帝人フロンティア(株)発足
衣料消費全般的に低調な推移

衣料製品:

- ・アセアン地域での生産体制の拡充を推進
⇒サプライチェーン安定化

テキスタイル:

- ・新製品・新ブランド発表
⇒素材提案力の訴求強化

産業資材:

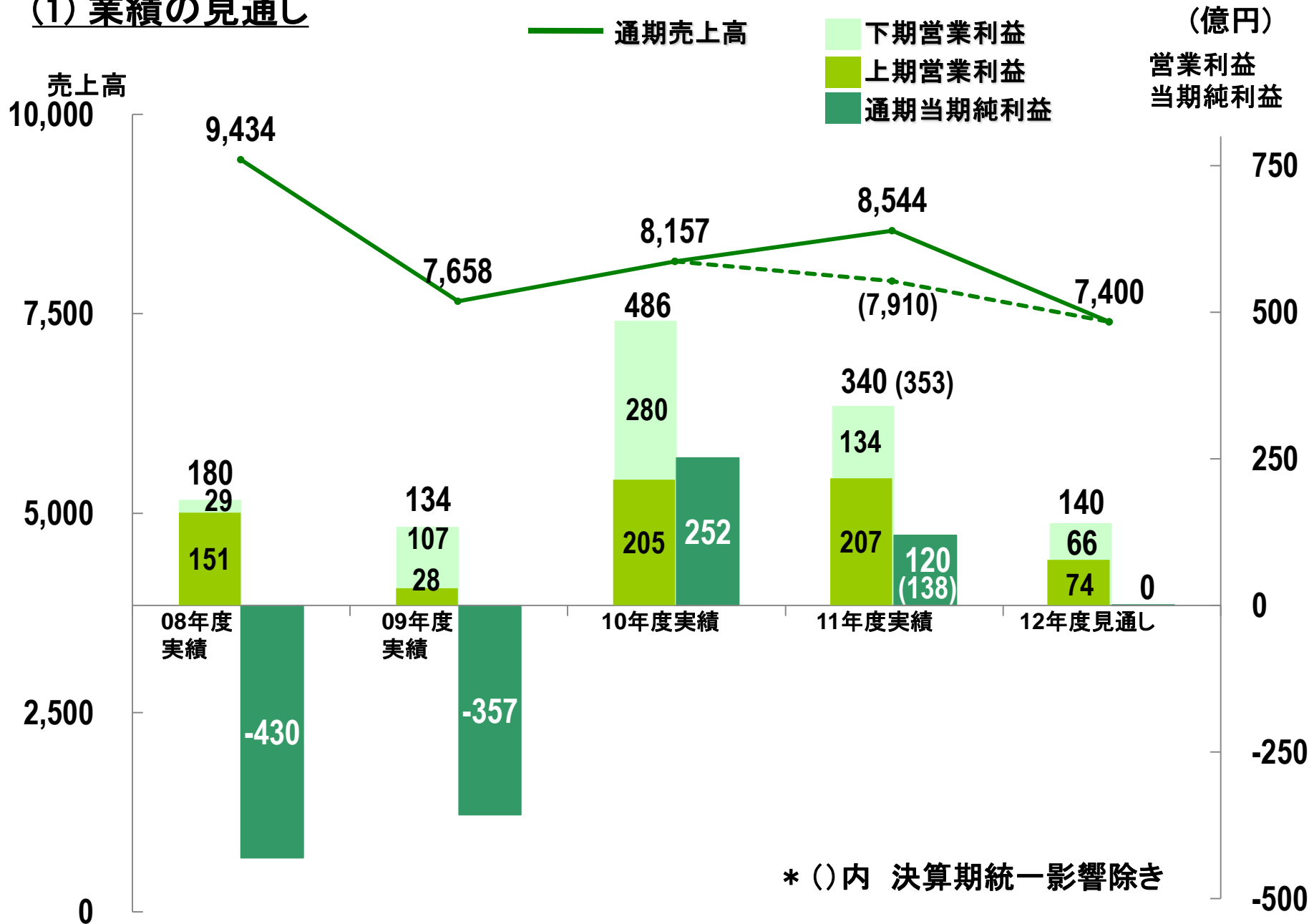
- ・重布、不織布、農水産土木資材の販売堅調
- ・エアバッグ用基布生産会社、本格稼働開始

◆セグメント別 四半期売上高・営業利益推移

		11年度実績				12年度実績		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
(億円)								
売上高	高機能繊維・複合材料	355	361	341	476	261	266	252
	電子材料・化成品	469	461	463	761	437	447	430
	ヘルスケア	349	331	361	389	312	331	357
	製品	560	675	668	724	549	608	609
	計	1,733	1,828	1,833	2,350	1,560	1,652	1,648
	その他	163	212	186	239	184	187	200
	合計	1,896	2,040	2,019	2,589	1,743	1,839	1,848
営業利益	高機能繊維・複合材料	24	29	13	7	-3	6	-20
	電子材料・化成品	32	26	17	-37	16	-1	-4
	ヘルスケア	72	47	76	64	38	55	71
	製品	11	19	20	16	7	14	15
	計	138	121	126	50	58	74	62
	その他	3	11	3	21	4	2	8
	消去又は全社	-31	-35	-31	-34	-32	-32	-43
合計	110	96	97	37	30	44	28	

通期業績見通し

(1) 業績の見通し



(2) 通期業績見通しの概況

*2 前回見通しは2012年11月2日に公表

(億円)	11年度	12年度 今回見通し	差異	
			金額	%
売上高	8,544 (7,910)	7,400	-1,144 [-510]	-13.4% [-6.5%]
営業利益	340 (353)	140	-200 [-213]	-58.9% [-60.3%]
<営業利益率>	4.0% (4.5%)	1.9%	—	-2.1% [-2.6%]
経常利益	343 (359)	100	-243 [-259]	-70.8% [-72.1%]
当期純利益	120 (138)	0	-120 [-138]	-100.0% [-100.0%]

12年度 前回見通し*2	前回見通し との差異 (金額)
7,700	-300
250	-110
3.2%	-1.4%
200	-100
30	-30

設備投資*1	323	400	+77	+23.9%
減価償却費	523	500	-23	-4.4%
研究開発費	318	330	+12	+3.6%

450	-50
500	—
340	-10

*1 設備投資には無形固定資産を含む

■ 中間配当及び期末配当予想

中間配当	2.0円/株
期末配当	2.0円/株の見通し
年間配当	4.0円/株の見通し

■ 2012年度見通し前提

	前回見通し*2	今回見通し
米ドル	80円	83円
ユーロ	100円	107円
原油(Dubai)	108米ドル/バレル	108米ドル/バレル

セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

(億円)		前回見通し*			今回見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	528	672	1,200	528	572	1,100	-100
	電子材料・化成品	884	916	1,800	884	816	1,700	-100
	ヘルスケア	643	807	1,450	643	757	1,400	-50
	製品	1,157	1,293	2,450	1,157	1,243	2,400	-50
	計	3,211	3,689	6,900	3,211	3,389	6,600	-300
	その他	371	429	800	371	429	800	-
合計		3,583	4,117	7,700	3,583	3,817	7,400	-300
営業利益	高機能繊維・複合材料	3	2	5	3	-48	-45	-50
	電子材料・化成品	15	10	25	15	-20	-5	-30
	ヘルスケア	93	187	280	93	157	250	-30
	製品	22	38	60	22	28	50	-10
	計	132	238	370	132	118	250	-120
	その他	6	34	40	6	34	40	-
	消去又は全社	-64	-96	-160	-64	-86	-150	+10
合計		74	176	250	74	66	140	-110

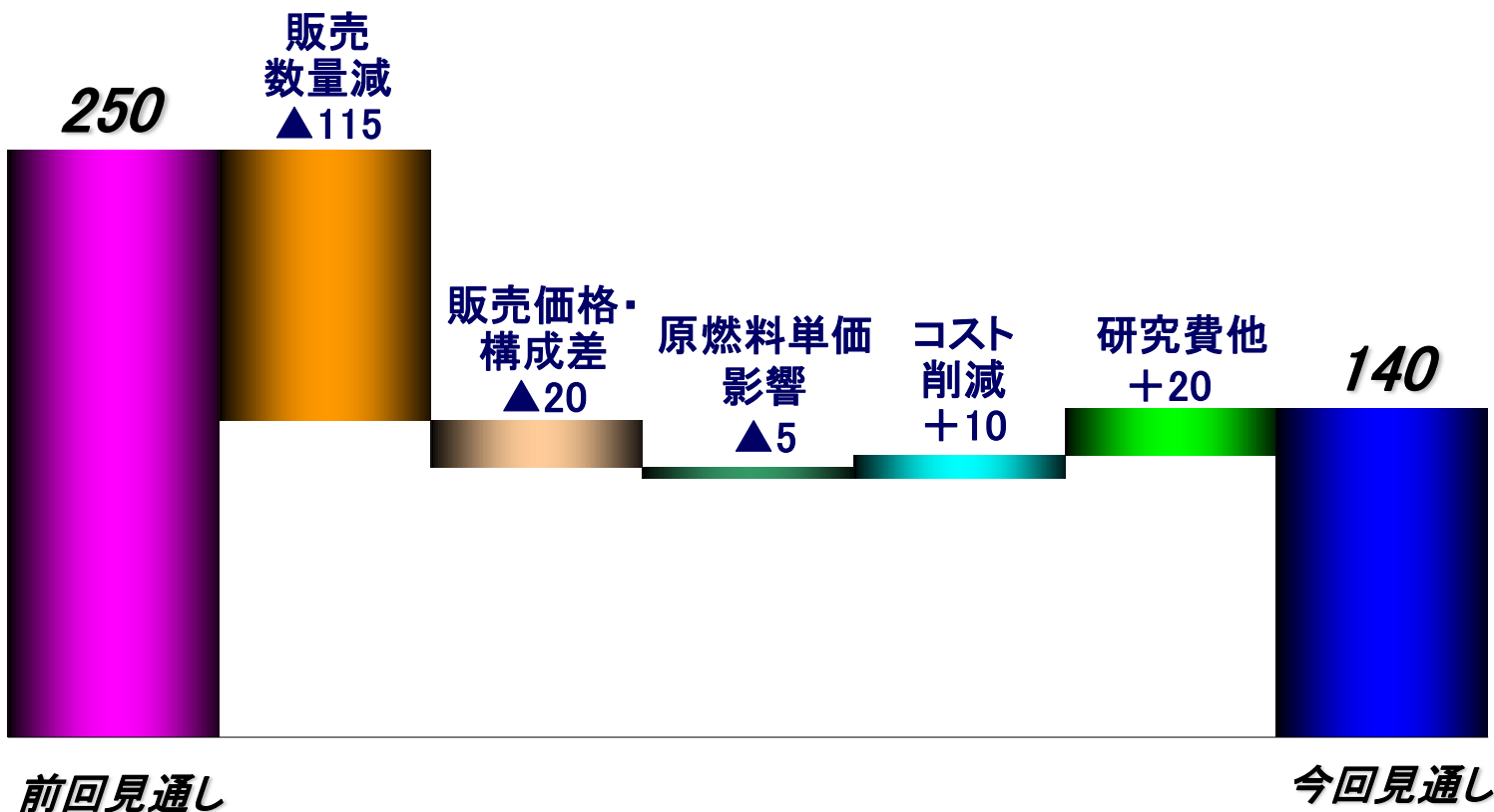
*前回見通しは2012年11月2日に公表

(3) 前回見通しとの差異

- 素材事業全般 : 事業環境悪化に伴う販売減少、及び操業度低下
競合激化・原燃料価格高騰に伴う採算悪化
- ヘルスケア事業 : 既存薬の販売伸び悩み

営業利益増減 内訳

(億円)



(4) 環境認識

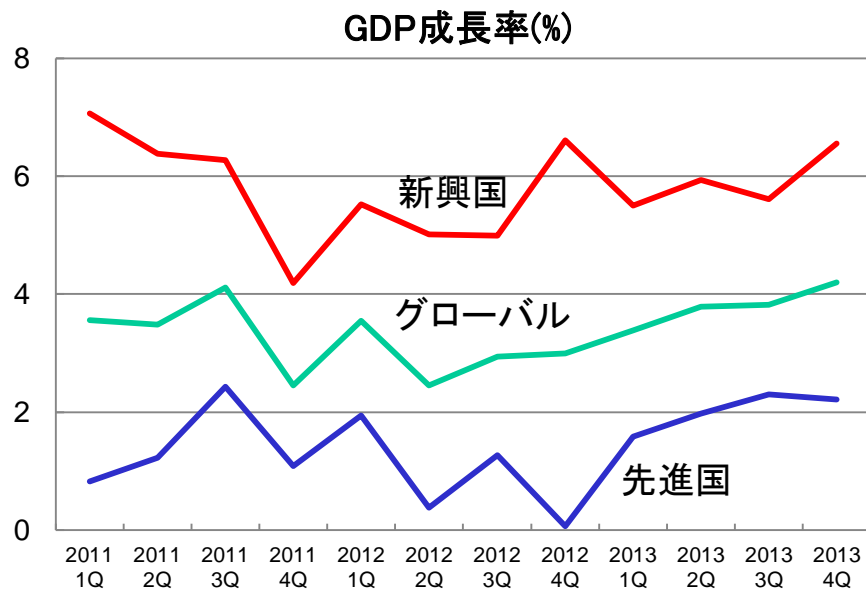
【2012年】 <外部環境>

- ・欧州の緊縮財政と景気低迷の長期化 ⇒ 中国等の新興国へも波及
- ・日系エレクトロニクスメーカーの収益力低下
- ・他社新薬の伸長、一般名処方の普及、薬価改定

<帝人固有の状況>

- ・欧州依存度の高さ : アラミド繊維、炭素繊維・複合材料
- ・顧客・用途の偏重 : 電子材料・化成品

【2013年】 <外部環境> — 総じて緩やかな回復が見込まれる —



- ・ 欧州 : 景気底割れは回避も内需低迷は長期化
- ・ 米国 : 大幅な緊縮財政は回避、緩やかな成長軌道へ
- ・ 中国ほか新興国 : 既往景気テコ入れ策の効果により徐々に持ち直し

(5) 事業構造改革

- 中長期経営ビジョンで掲げた成長戦略の基軸は不変
- ビジョンの実現に向けた推進中の競争力強化策
 - ・営業力強化：マテリアル ビジネス アカデミー、ニトリ プロジェクトチーム
 - ・コストダウン：「あるべきコスト水準」の設定と、その実現に向けた各種アクションプランの遂行
 - ・グループ機構改革：本社スタッフ機構改革(2013/4予定)



外部環境の好転に頼らない抜本的な事業構造改革を検討中

- ・ 全ての事業を対象とした、生産体制の再編・再構築等

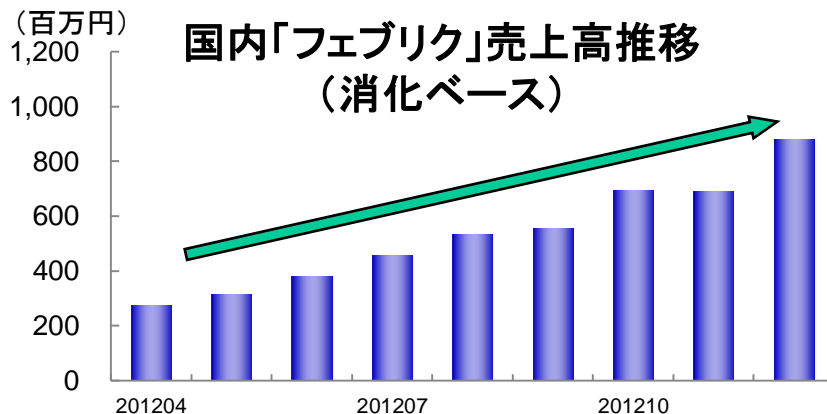


収益力の早期回復と成長軌道への回帰へ

(6) トピックス

◆ 痛風・高尿酸血症治療剤(フェブキソスタット)

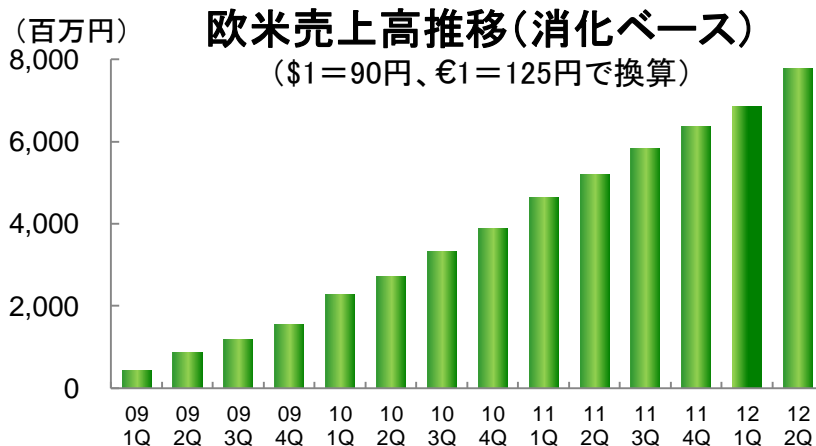
・ 国内販売は拡大を継続



2012年12月度シェア: **29%**
 高尿酸血症治療剤シェア
 トップクラスへ成長

Copyright2013 IMSジャパン(株)
 出典: IMS医薬品市場統計
 2012年12月MATをもとに作成
 無断転載禁止

・ 米国・欧州でも順調に拡大



米国: TPUSA社*の痛風薬ラインナップ追加によるシナジー効果を期待
 痛風治療ガイドラインへの掲載も追い風に

欧州: 既存販売国での拡販と販売国の増加

* 武田ファーマシューティカルズUSA, Inc.

Copyright2013 IMS Health
 出典: IMS MISDAS
 2009-2012をもとに作成
 無断転載禁止

2013年度: 更なる売上拡大を見込む

◆ヘルスケア(在宅医療):

携帯型酸素濃縮装置「ハイサンソポータブルα」上市

軽症で「長期間にわたりHOTを継続できる患者層」の掘り起こし

- ・労作時のみ低酸素となる軽症患者
- ・HOT導入に対して抵抗感の強い患者

➡ レンタル台数の増加とボンベ費用の削減

【特長】

- ・ 小型・軽量
- ・ 低騒音設計
- ・ 酸素濃度維持機能(帝人独自の技術)

2013年1月よりレンタル開始

国内HOT事業のリーディングカンパニーとして
更なるサービスの拡充を図る



◆ 腰椎椎間板ヘルニア治療薬 KTP-001

【現在の治療法】

根本的にヘルニアを退縮させる薬剤は存在せず

- 保存療法：鎮痛剤を服用しながら時間をかけてヘルニアの自然退縮を待つ
- 手術療法：ヘルニアを外科的に取り除く（患者の身体的負担大）

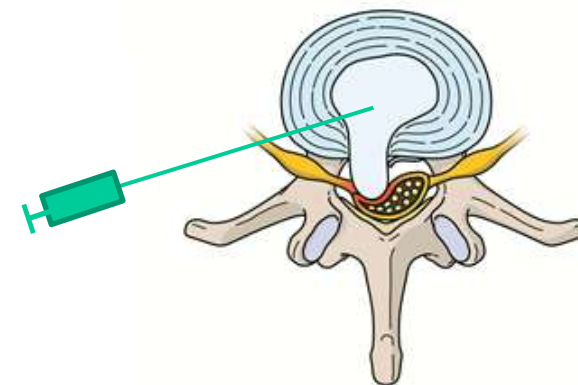
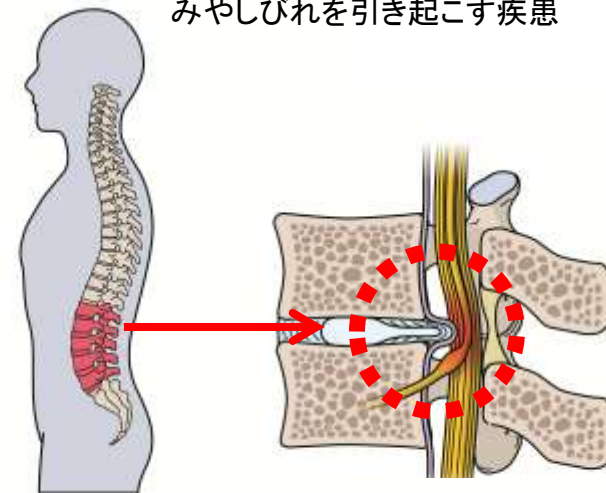
【KTP-001の有用性】

手術に代わる新たな治療選択肢

- 根本的治療法：椎間板への直接注入により、ヘルニアの退縮を促す
- 患者の経済的・社会的負担を軽減：入院が殆ど不要
- 副作用リスクを低減：ヒト型タンパク質の利用によりアレルギー反応などを抑制

米国にて臨床第 I / II 相試験を開始、海外でのライセンス先も探索

腰椎椎間板ヘルニア: 腰椎の椎間板の一部が突出して脊髄の神経を圧迫することにより、腰や下肢に激しい痛みやしびれを引き起こす疾患

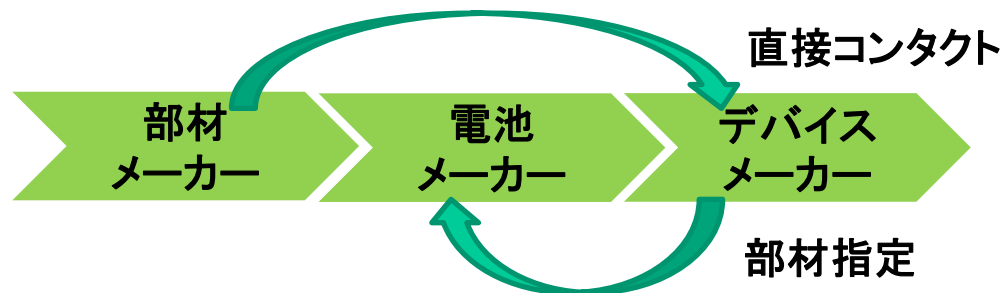


▶* KTP-001は波呂浩孝氏(山梨大学大学院・教授)と小森博達氏(横浜市立みなと赤十字病院・副院長)の発明に基づき、帝人ファーマ(株)と一般財団法人化学及血清療法研究所が共同で開発・創製した薬剤です。

◆革新的LiBセパレータ「LIELSORT」

フッ素系化合物コーティング セパレータ

- ・複数の大手電池メーカーのパウチ型LiBでの採用が進む
- ・オープン・イノベーション：最終顧客への直接的なアプローチが奏功
⇒大手メーカーのスマートフォン、タブレット端末への採用が決定



- より正確な需要の把握
- 顧客に対する提案力アップ

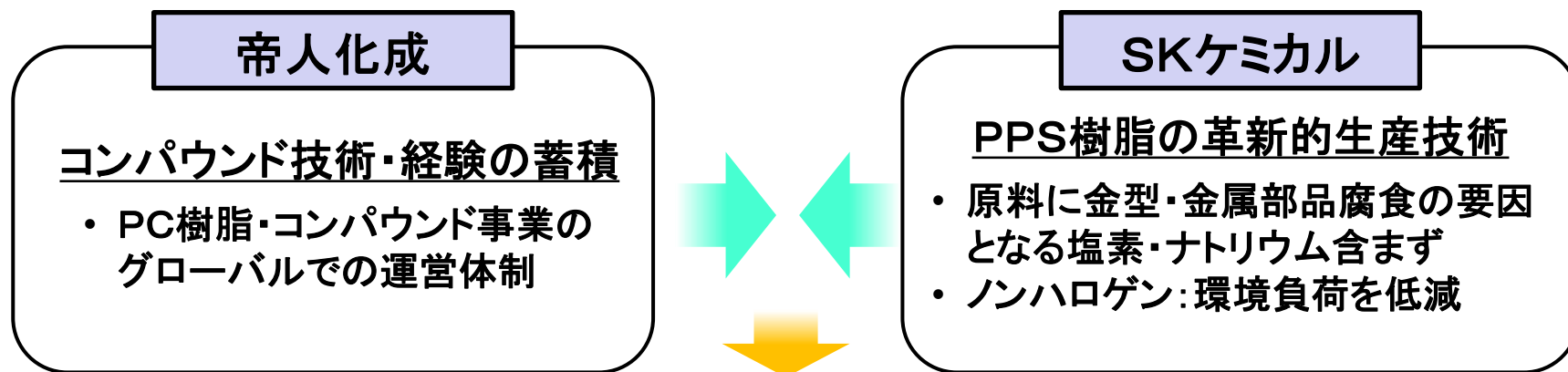
アラミドコーティング セパレータ

- ・高い耐熱性・耐酸化性 ～ 異常発熱に対して高い防止効果
- ⇒自動車・大型蓄電池向け用途に認定評価が進展中

韓国 生産拠点（2012/7稼働）：2013年度にはフル生産 ⇒ 2系列目の増設も視野に

市場でのポジション強化、次世代開発を先取り

◆PPS樹脂事業への参入



合併会社設立

- ・ 帝人化成 34%、SKケミカル（韓国） 66%
- ・ PPS樹脂 及び そのコンパウンド品（複合材料）の製造・販売
- ・ 韓国（ウルサン市）に樹脂工場建設、2015年稼働
- ・ ハイエンドの自動車用途、電子材料への展開に注力

樹脂ラインナップの拡大・ソリューション提供力の向上

⇒ 中長期経営ビジョンで掲げる

「ソリューション提供型ビジネスモデルへの進化」の実現へ

(7) 主要経営指標

	08年度 実績	09年度 実績	10年度 実績	11年度 実績	12年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.9%	1.6%	6.1%	4.5%	2%
ROE：当期利益／自己資本*1	-12.3%	-12.4%	9.1%	4.2%	0%
売上高営業利益率	1.9%	1.8%	6.0%	4.0%	1.9%
D/Eレシオ*2	1.18	1.18	0.94	0.89	0.9
自己資本比率	35.0%	33.0%	37.3%	38.3%	37%
1株当たり当期純利益(円)	-43.7	-36.3	25.6	12.2	0.0
1株当たり配当金(円)	5.0	2.0	5.0	6.0	4.0
総資産(億円)	8,742	8,231	7,615	7,621	7,600
有利子負債(億円)	3,613	3,203	2,674	2,610	2,500
EBITDA(億円)*3	853	753	1,050	863	640

*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*3 「営業利益+減価償却費」にて算出

見直しに関する注意事項と事業等のリスク

見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動により事業業績が大きく左右されることがあります。

② 製品の品質にかかもの

医薬医療事業においては、生命関連商品を取り扱っているため、製品の欠陥により、業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

③ 医薬品の研究開発にかかもの

医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2013年2月4日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。
本資料に記載された製品名等は登録商標です。

◆セグメント別売上高・営業利益推移(前年対比)

(億円)		11年度実績					12年度見通し		
		上期	下期	計	決算期 統一	年間	上期	下期	年間
売上高	高機能繊維・複合材料	716	642	1,358	174	1,532	528	572	1,100
	電子材料・化成品	930	877	1,806	347	2,154	884	816	1,700
	ヘルスケア	680	715	1,395	35	1,430	643	757	1,400
	製品	1,235	1,315	2,550	77	2,627	1,157	1,243	2,400
	計	3,560	3,549	7,110	633	7,743	3,211	3,389	6,600
	その他	375	425	801	0	801	371	429	800
合計		3,936	3,975	7,910	633	8,544	3,583	3,817	7,400
営業利益	高機能繊維・複合材料	52	13	66	6	72	3	-48	-45
	電子材料・化成品	57	-8	49	-12	37	15	-20	-5
	ヘルスケア	119	145	264	-5	259	93	157	250
	製品	30	36	66	-0	66	22	28	50
	計	259	186	445	-11	434	132	118	250
	その他	13	24	37	0	37	6	34	40
	消去又は全社	-66	-64	-130	-2	-131	-64	-86	-150
合計		207	146	353	-13	340	74	66	140

(注)平成24年3月期の数値を会社組織改革後の報告セグメントの区分に組み替えて表示しています。

◆ 連結貸借対照表

	11年 3月末	11年 6月末	11年 9月末	11年 12月末	12年 3月末	12年 6月末	12年 9月末	12年 12月末
(億円)								
資産 合計	7,615	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397	7,318	7,800
流動資産	3,369	3,583	3,694	3,756	3,618	3,521	3,507	3,734
固定資産	4,246	4,238	4,151	4,002	4,003	3,877	3,810	4,066
負債・純資産 合計	7,615	7,820	7,845	7,758	7,621	7,397	7,318	7,800
負債	4,538	4,683	4,742	4,697	4,499	4,402	4,330	4,654
(内 有利子負債)	2,674	2,846	2,880	2,850	2,610	2,547	2,523	2,749
純資産	3,077	3,138	3,103	3,060	3,122	2,995	2,988	3,145

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆ 連結損益計算書

(億円)	11年度				12年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,896	2,040	2,019	2,589	1,743	1,839	1,848
売上原価	1,339	1,479	1,478	1,996	1,275	1,357	1,382
売上総利益	557	561	541	593	468	483	466
販管費	447	465	444	557	439	439	438
営業利益	110	96	97	37	30	44	28
営業外損益	18	-8	2	-9	-8	-17	8
(内 金融収支)	-4	-9	-7	-15	-3	-7	-5
(内 持分法投資損益)	26	13	8	6	4	1	1
経常利益	128	89	99	27	22	27	36
特別損益	-1	-19	-18	-27	-25	16	-8
税前利益	127	70	81	0	-3	43	28
法人税等	59	35	22	32	16	30	9
少数株主損益	5	6	-0	-0	-2	2	5
四半期純利益	63	29	59	-31	-16	10	15

* 詳細については決算短信をご覧ください

◆営業外損益

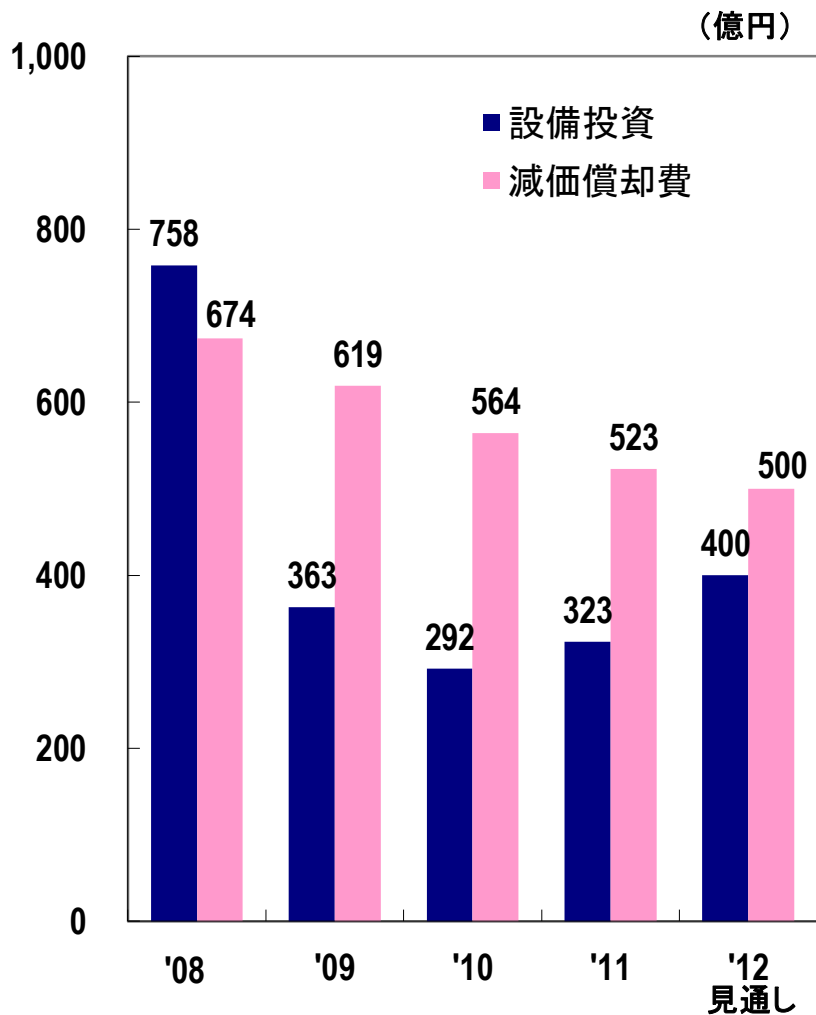
(億円)	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計
受取利息	4	3
受取配当金	7	7
持分法による投資利益	47	6
デリバティブ評価益	—	14
雑収入	9	9
営業外収益 計	66	39
支払利息	32	26
為替差損	5	9
雑損失	18	21
営業外費用 計	55	56
営業外損益 計	12	-17

◆特別損益

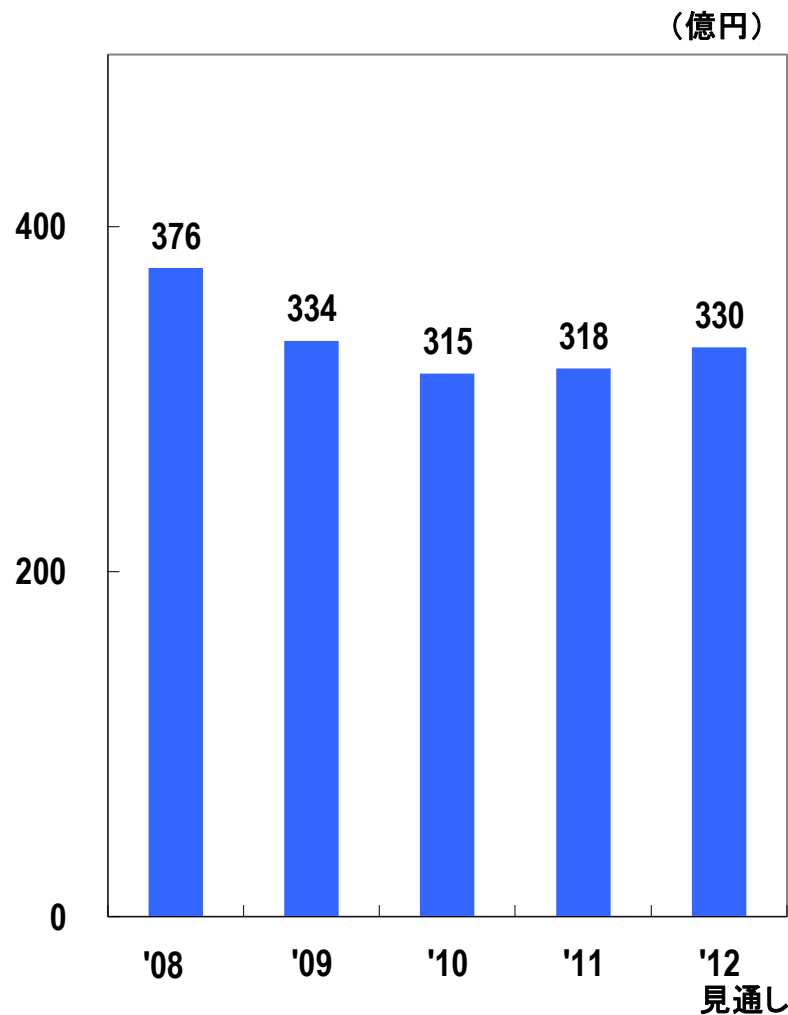
(億円)	11年度 3Q累計	12年度 3Q累計
固定資産売却益	2	9
関係会社株式売却益	7	—
退職給付制度改定益	—	4
その他	4	3
特別利益 計	13	17
固定資産除売却損	3	8
投資有価証券評価損	20	8
減損損失	12	7
貸倒引当金繰入額	4	—
震災関連費用	3	—
洪水関連費用	—	3
その他	8	8
特別損失 計	50	33
特別損益 計	-37	-16

◆設備投資・減価償却費・研究開発費推移

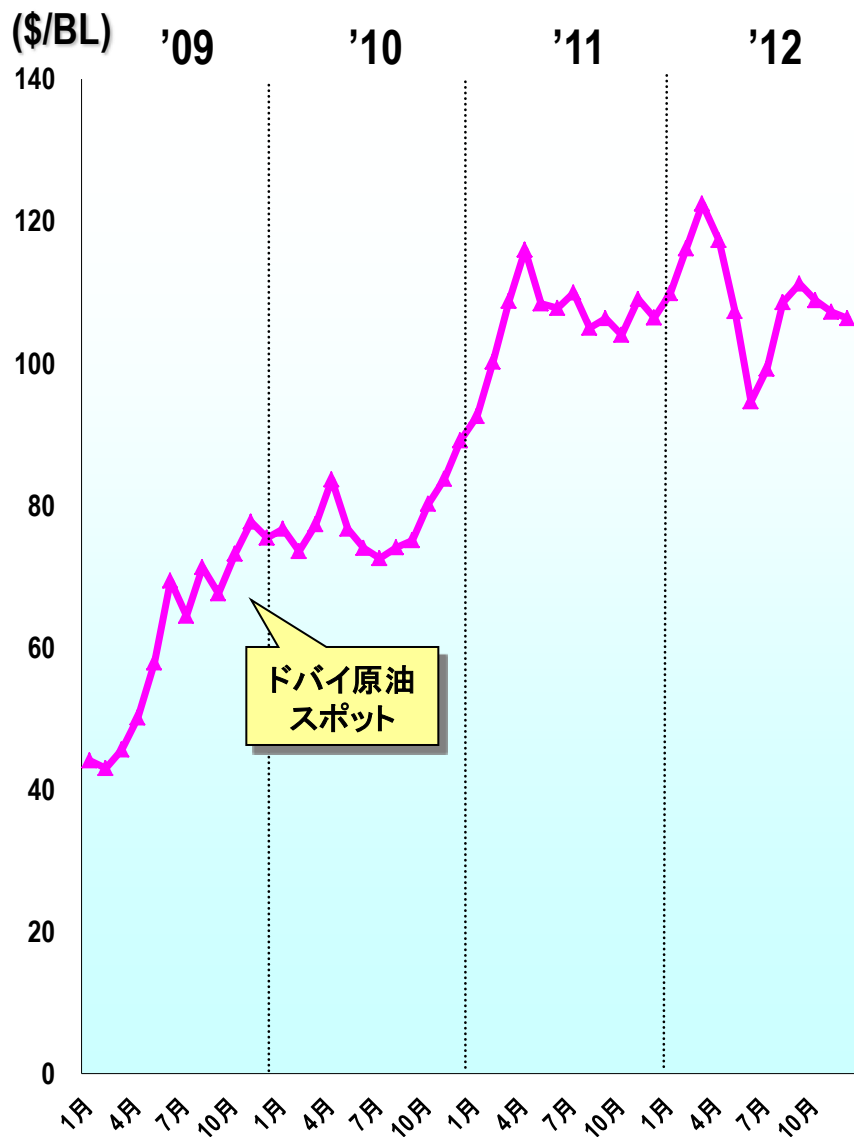
設備投資・減価償却費



研究開発費

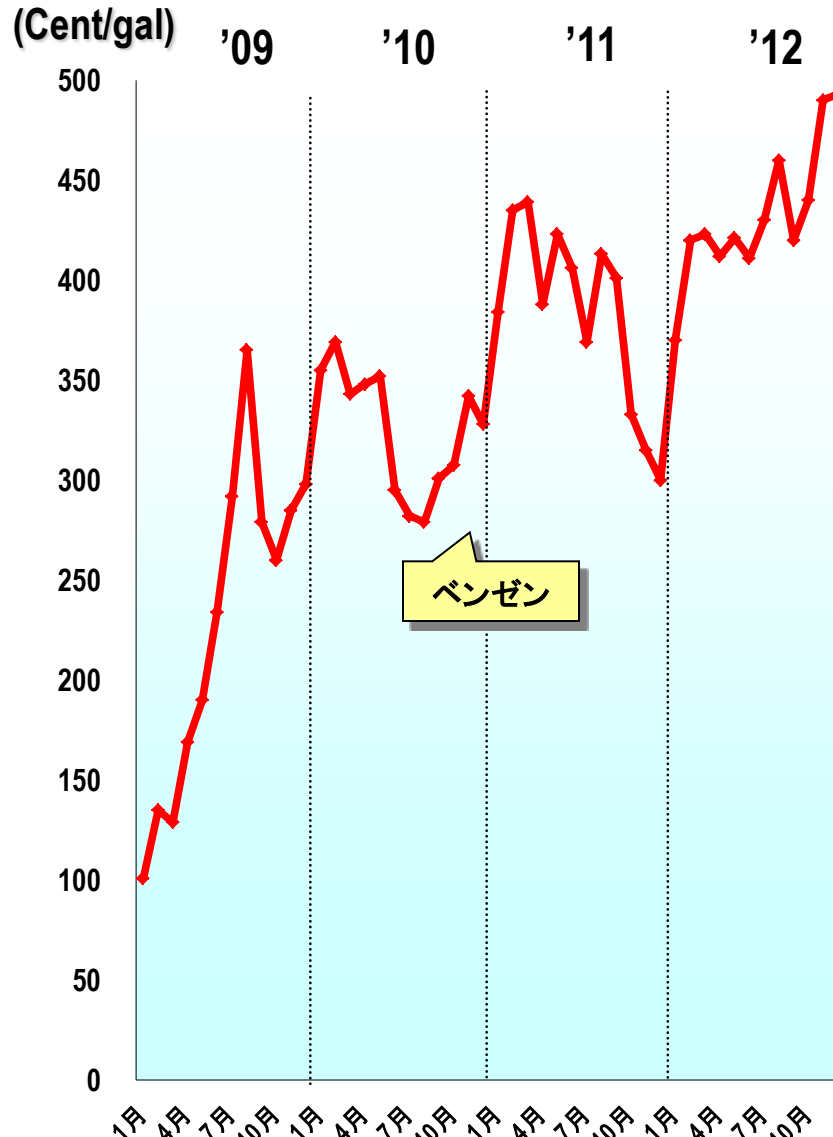


◆ドバイ原油価格推移



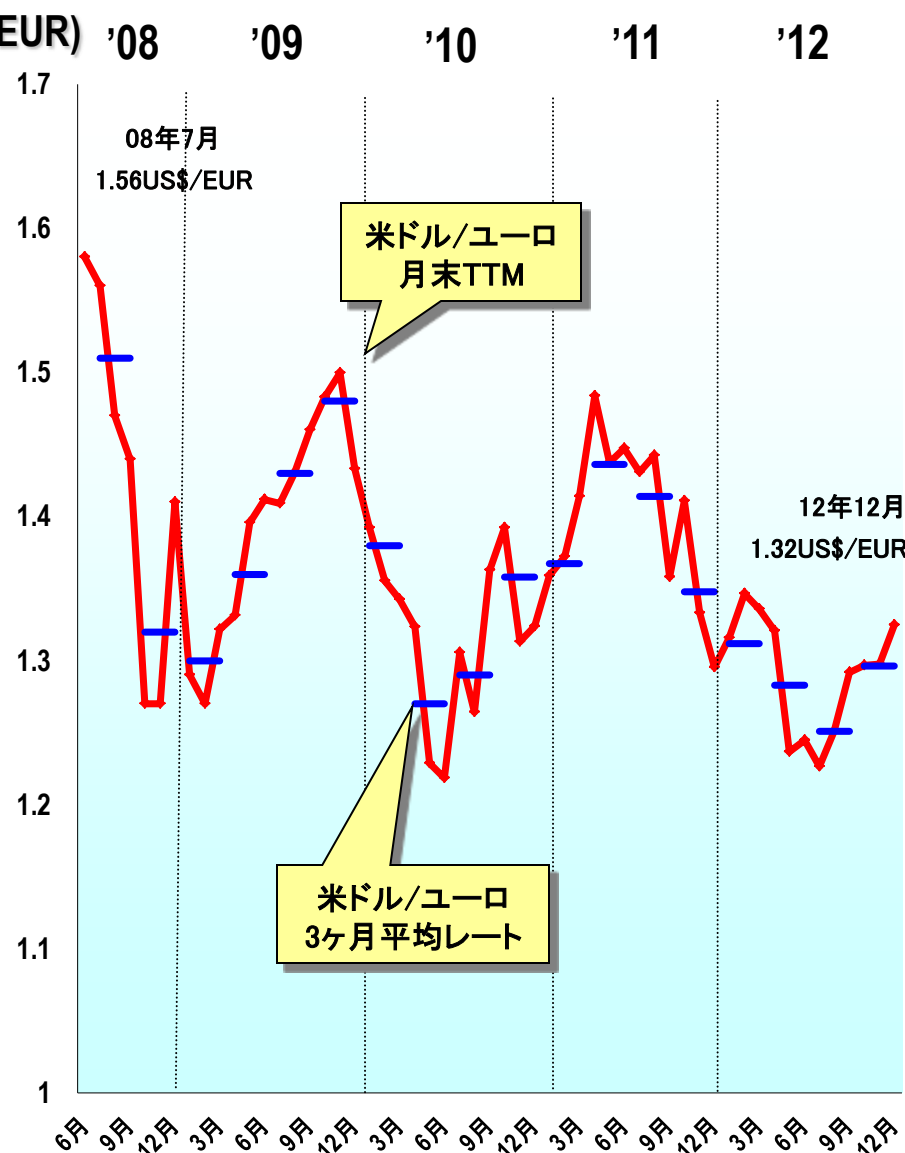
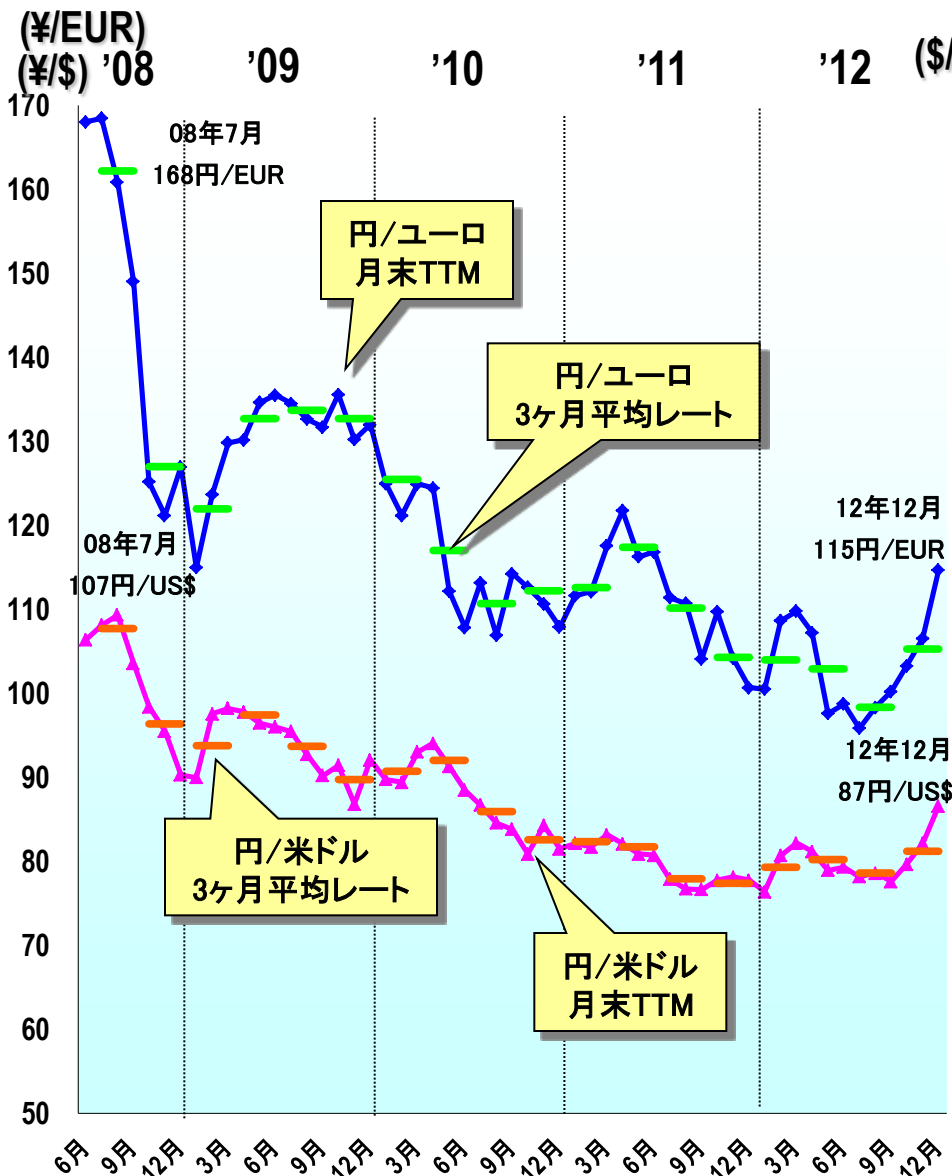
【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】

◆ベンゼン価格推移



【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

◆円/米ドル、円/ユーロ為替レート推移



◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	11年度					12年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	52	52	54	47	205	33	40	43
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	27	27	30	27	111	18	20	21
骨粗鬆症治療剤計		79	79	84	74	316	51	60	65
ムコソルバン®	去痰剤	24	21	30	24	99	21	19	26
ベニロン®	重症感染症治療剤	23	22	26	23	94	24	24	27
ラキソベロン®	緩下剤	10	10	11	10	42	10	10	11
サイビスクディスポ®	変形性膝関節症の疼痛緩和剤	4	4	5	3	17	4	3	3
トライコア®	高脂血症治療剤	3	4	6	2	15	4	4	5
ボンアルファ®	角化症治療剤	3	3	4	3	14	4	3	4
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	3	4	13	3	3	4
スピロペント®	気管支拡張剤	2	2	3	2	10	2	2	2
フェブリク®	高尿酸血症治療剤	5	0	1	3	9	7	12	17

* ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

◆疾患分野別臨床開発段階 (2012年12月末現在)

* 承認/新規上市は直近1年間を記載

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認/ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058* ² KTP-001* ⁴			GTH-42V* ¹ [ボナロン®] GTH-42J* ⁵ [ボナロン®]
呼吸器 領域	NA872ET [ムコソルバン]				
代謝・ 循環器領域	TMG-123* ⁶	ITM-077 NTC-801	TMX-67* ⁷ [フェブリク] (中国)		ITM-014* ³ [ソマチュリン®]
その他		GGs [ベニロン] (適応追加: 顕微鏡的多発血管炎)	GGs* ⁸ [ベニロン] (適応追加: 視神経炎)	TV-02H [ボンアルファ ハイ軟膏] (中国)	

*1 GTH-42Vは2012年1月に製造販売承認を取得、5月に販売開始、*2 ITM-058は2012年5月にPhase II 段階へ移行、

*3 ITM-014は2012年6月に製造販売承認を取得、*4 KTP-001は2012年8月に米国でPhase I / II 段階へ移行、

*5 GTH-42J は2012年8月に製造販売承認を取得、*6 TMG-123 は2012年8月に Phase I 段階へ移行、

*7 TMX-67は2012年11月にアステラス中国との共同で中国での臨床開発に移行、

*8 GGSは2012年12月に視神経炎への適応拡大の臨床開発に着手

◆前臨床段階の導入状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2012年9月	英Pulmagen社	気管支喘息治療薬導入のライセンス契約締結

◆新規上市医薬品 (2012年12月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ボナロン® 点滴静注バッグ900μg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)の注射剤。 経口剤を服用できない患者等への処方が可能となり、服薬コンプライアンスの改善や経口剤に比べて上部消化管障害の低減が期待される。	注射	導入:米メルク社 2012年5月10日に国内販売開始

◆承認済医薬品 (2012年12月末現在)

販売名(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ソマチュリン® 皮下注 (ランレオチド酢酸塩)	先端巨大症 下垂体性巨人症	先端巨大症及び下垂体性巨人症における過剰な成長ホルモンの分泌を抑制する薬剤。 徐放性と持続的な薬効発現を可能とする製剤処方とプレフィルドシリンジの採用によって、現行の治療薬と比べて利便性とコンプライアンスの向上が期待される。	注射	導入:仏イプセン社 2012年6月承認取得
ボナロン® 経口ゼリー35mg (アレンドロン酸ナトリウム水和物)	骨粗鬆症	既に販売している骨粗鬆症治療薬 アレンドロネート製剤(ボナロン)のゼリー剤。 骨粗鬆症領域の治療薬として世界初のゼリー剤。 良好な食道通過性と型崩れしない適度な硬さを有し、錠剤を好まない骨粗鬆症患者に選択肢を提供できるほか、高齢者に取扱いやすいことが期待される。	ゼリー	導入:米メルク社 2012年8月承認取得

ボナロン® / Bonalon® は Merck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

ソマチュリン® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

◆新規開発医薬品 (2012年12月末現在)

【申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TV-02H (タカルシトール水和物)	尋常性乾癬	国内販売しているボンアルファハイ軟膏20 μ g/gを中国に導出。既に中国で上市・販売している低濃度製剤(2 μ g/g)に加えることで、当該適応症における治療選択肢の幅を広げることができる。	軟膏	2010年9月低濃度製剤に対する補充申請(中国)

【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発:化血研 (適応追加)
TMX-67 (フェブキソスタット)	痛風・高尿酸血症	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における痛風・高尿酸血症治療の新たな選択肢として、痛風・高尿酸血症患者のQOL(Quality of Life)向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発:アステラス 中国 (中国)

【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-077 (Taspoglutide)	2型糖尿病	血中グルコース濃度に依存したインスリン分泌促進作用による血糖コントロール薬。低血糖リスクが少なく、体重減少作用を有する。 週1回投与が可能であり、利便性に富む。そのほか、インスリンを分泌する膵臓β細胞の保護及び再生作用が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社
NTC-801	心房細動・粗動	心房選択的な心房細動・粗動の治療ならびに予防薬。 既存薬の問題点である心室性副作用(不整脈誘発作用、心機能抑制作用)が無いことが期待される。	錠剤	共同開発: 日産化学工業
GG5 (乾燥スルホ化免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発: 化血研

【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アムブロキソール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アムブロキソール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ないなど)が期待される。	錠剤	

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions

Human Chemistry, Human Solutions

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。